

令和6年度 第5回学校運営協議会 議事録（案）

第5回：令和6年度 学校運営協議会（発信者ごとの要点議事録）	
日 時：令和7年 2月28日（金曜日） 14：30～16：00	
場 所：西東京市立田無第二中学校 会議室	
出席者：折田 和文（会長）、真鍋 五十鈴委員（副会長）、勇 昇一委員、 奥村 咲子委員、吾妻 隆一委員、矢野 尊久委員、南川 広幸委員 欠席者：山崎 英昭委員、一之瀬 裕幸委員、本間 孝子委員、 委員10名のうち7名出席により、本会議は成立	
次第1	校長挨拶 司会：副校長
校長：	今日で今年度最後の協議会となります。一年間大変にお世話になりありがとうございました。本日は年度末の学校評価に関して皆様のご意見をいただきながら改善していければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。
副校長：	それではここから議題に入りますので、会長に司会をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
会長：	こんにちは。それでは第5回協議会を宜しくよろしくお願いいたします。 本日は関係者評価に時間をかけたいと思いますのでさっさと進めていきたいと思 います。
次第2	議題
	(1) 第4回協議会 議事内容確認
会長：	いつものように確認をこの場でしていただきたいのですが今回は時間の関係上、 一応承認としたいと思いますよろしいでしょうか。気づいたのですが副会長の 苗字が印字されていないようなので修正していただき、その他にご意見やご指摘 がございましたら副校長に後ほど連絡をお願いいたします。
	(2) 3学期の学校状況報告
校長：	今日で2月も終わりますが、大きな行事としては1年生の“スキー教室”2年生 の“都内巡り”がありました。3年生は“受験”ということで先週受験も終わり 3月3日月曜日に発表となります。 “スキー教室”ですが、皆様もご存じのように今年は大寒波の影響で大雪となり ました。私が今までに経験した“スキー教室”の中で一番寒いものでしたが雪質 はとてもよく、極寒の中でも子どもたちは大満足の様子で頑張って滑っておりま した。あの寒さの中でしたが、高熱を出した生徒が一名いましたがケガもなく、 ほぼ参加した生徒は滑ることができるようになったりと、スキー実習を含め集団
生	活がよくできたと思います。食事でもご飯が足りなくなるほど大変元気な学年で した。 一方、2年生の“都内巡り”の方は修学旅行を見据えての行事でした。副校長先 生が引率してくれたのですが、2年生は“平和学習”をしておりますのでその続 きということで都内の平和施設や各班で選んだ場所、例えば「第五福竜丸展示 館」などを訪れ、ほぼ予定時間内で戻ってきました。移動は経費削減のため限定 的に地下鉄メトロだけを使っの行動でした。子たちはそれなりに協力し合いなが ら行動していたようなので、その経験が半年後の修学旅行での班行動につなが ると思います。 3年生については先ほどもお伝えした通り、受験の合否が落ち着いた後、実質 10日くらいで卒業式を迎えることとなります。その間に、いろいろな特別授業 があります。昨年は校外学習として「ハリー・ポッター」を観劇しましたが、今 年はミュージカル「美女と野獣」を舞浜で観劇することとなります。おそらく今 年がこのような大きなイベントとしては最後となると思います。来年からは外部 のものを見に行くようなイベントではなくなり、違う形のイベントとなると思

ます。

(3) 学校関係者評価 等

校長： (健康・誠実/質の高い教育/考え、感じ取る生徒の育成)

学力向上

私からは「学力向上」についてご説明いたします。とにかく中学生は学力をつけることが重要な課題となりますので教員には最大限のお願いをしております。

努力目標保護者アンケートでは“教職員はよくわかる授業を心がけ、指導の工夫をしている”の問いに対して、“肯定的な回答はどちらかというと思う”を含めると90%となり、評価5となっています。

成果目標保護者アンケートでは“二中の生徒は授業を通して、基本的な知識や技能が身に付いている”に対して肯定的な回答は80%となっていますが、否定的な回答は20%となっています。保護者から見て、教員の努力は認めているものの、ご自分の子どもの状況からは“知識や技能が身に付いていない”と若干2割程度の保護者は“まだ足りない”と期待を込めているのではないかと考えています。肯定的な回答は80%で目標の90%に到達できなかったため、評価4となります。「学力向上」というテーマは永遠の継続的なテーマだと思います。来年は新しい教科書になることもあり、最初は評価によっては大変かもしれませんが、とにかく生徒の学力をつけて、二中の生徒の学力向上に向けて努力を続けていきたいと思っています。

副校長：この後の説明は担当教員がいたしますので。各説明の終了ごとに質疑応答をお願いいたします。評価は最後の項目が終わった段階でお願いいたします。

会長： 「学力向上」に関して質疑はありますか。

副会長：全体的に良い評価だとは思いますが、評価がよかったということで終わりにせず、否定的な少数意見も大事な視点だと思いますのでそこも深掘りする必要があると考えます。お子さんを通して全体の大事な評価だと思います。

校長：これ以外にも、1学期末と2学期末に生徒から「授業アンケート」をとっています。その結果を教員自身の教科や学年で評価したものもあり、管理職が学期ごとに一人ずつ面接を行っています。その時にその評価に関して確認したり質問をしたりする面談スタイルをとりながら、日々改善努力をしています。

副校長：私からの追加報告があります。この目標の設定の仕方として努力目標と成果目標があります。努力目標は教員アンケートによって評価することになっているのですが、大変に申し訳ないことに9月はとったにもかかわらず、12月に取りそびれてしまいました。したがって今回は努力目標については評価せず、近日中に教員アンケートをとり、再度教員の方で評価したものをお送りいたします。そこを加味していただければと思います。教員アンケートを12月にとっていないということで、今回は努力目標が空欄となっていることをご承知おきいただければと思います。大変申し訳ございません。

教諭1：①「生徒が主体となる指導の充実」

進路学習指導主任です。よろしくお願いいたします。

「生徒が主体となる指導の充実」の努力目標の回答は後日ご連絡いたします。

記載されているコメントの説明は申し訳ありませんが割愛させていただきます。

成果目標この目標の基準は、生徒アンケートでは、「授業は主体的になれる内容であるか」という生徒から率直な意見をいただけるアンケートを行いました。結果として肯定的意見は1年96.3%、2年93.1%、3年96.5%と平均しても95%前後の結果となりました。主体的にとは「生徒たちが自分たちで意見を発言する場面や自分たちで課題を見つけたりする場面、つまり自分たちが能動的に活動できる瞬間が授業の中にあるか」ということが基準となってきます。皆様が学生時代の頃を振り返っていただくと、先生たちが一方的に話をして授業が終わってし

- まうというようなご経験があるかと思います。現状の学校教育ではそういう教育は目指していません。「生徒が自分たちで動いていき自分たちで考えていく場面をどれだけもてるか」ということが重要なポイントとなっています。前期でのアンケートははっきりとした質問ではなかったことを踏まえ、今回は単刀直入で具体的な質問に変更した結果 95%の肯定的な回答を得ることができました。
- 委員： 授業でタブレットやパソコンや IT 教材を活用することやグループ学習を積極的に取り入れることを大前提として教員も大変頑張っており取り入れていると、私たちも感じているところです。
- 会長： この項目についてご意見やご質問はありますか。
「生徒が主体的になる授業」とありますがどのように行っているのかを具体的に説明していただけますか。
- 教諭 1： 主体的な授業では初めにテーマについて基礎的な話の確認をします。その上で、課題や考えなどを生徒個人に投げかけ考えさせ、その考えをほかの生徒考えを共有させることによって、「自分の学びを掴めていく」ということが最終的に主体的な学びの目標となっています。このように授業では取り扱っています。
- 会長： 生徒からテーマを出すことはありますか。
- 教諭 1： 授業の基準として教科書をすべて網羅して授業を進めておりますので、ある程度のテーマは指定しますが、そのテーマの中で一定のゆとりを作り生徒が考える余地を残すような課題にして、実際に取り組みます。その課題をパソコンで調べその結果を紹介したりもっと掘り下げて意見を出したりできる場をもつようなことを如何に授業に取り入れるかが、“日本全体で動いている現在の教育現場の流れ”となっていると感じております。
- 校長： 黒板に単に書いていくだけではなく、課題や問題を個人で考え、班で話し合い、クラス全体で発表し、全体で協議して個人で再度考えたりするやり方や課題解決の様々なアプローチの方向や方法について班で協議し合ったりしています。公式だと決まってしまうますが、いろいろなアプローチの仕方、例えば教科書、問題集、インターネット、教師、友人など調べ方にもいろいろと自由度があります。総合的学習の調べ学習がそのやり方に近いと思いますが、教科の学習によっては主体的にやれるところとやれないところがあります。
- 会長： 生徒アンケートの「授業は主体的に取り組める内容である」の平均が 90%以上ということで高評価だと思います。
- 教諭 1： 子供たち自身が意見をする場があるとか考える場があると思わなければ、おそらくこのような肯定的な評価にはならなかったと思います。それは全教員が意識してやれているのではないかと考えます。
- 副会長： 授業参観などを見ると板書が書かれていますが、グループに分かれ話し合って自分の意見を出せるというような授業が今は主流なのかと感じています。また、タブレットですぐに自分の考えを先生に伝えることもできるような授業なのだと思います。やはりグループのような少人数だと自分の意見を発言しやすいということがあるのでしょうか。
- 教諭 1： その通りだと思います。自分でまず考える時間をとり、隣の人と 1 対 1 の話す場をとり、より多くの人に広げてやっていくのが一般的な流れだと思います。教科や時間制限などによってはすぐに話し合いを始めたり、じっくり時間をかけて成果を出しそれを発表したりレポートにまとめたりすることもあり様々です。グループ学習は一般的にどの教科でも行っていると思います。
- 委員： 学習の成果を発表したりすると場面で、発表する生徒の偏りはありますか。
- 教諭 1： 以前は発言の偏りは一部ありましたが、今は授業によってはすでに自分たちの意見を反映させられるパソコンを使い最終的にはそれを見ながら進めているので一部の生徒に偏ってしまうことは少なくなっていると思われます。ただ手を挙

げていない生徒もおりますので、各教科とクラスでバランスをとりながら調整していると思います。

副会長：グループになった時に、発表したりする生徒は自主的に決まってくるのですか。

教諭1：もともとある席でグループとなるとある程度はそのような生徒は決まってしまうと思います。グループワークをする際に意見をなかなか出せない生徒がいると学習効率もバラツキが出てきてしまいますので、まず教員が教室の席を決める際にグループになった時に必ずメインになれる生徒が何人か入るようにバランスを考慮して組み、少人数の学習がより充実できるようにデザインしています。

副会長：ある程度先生方は実践していることですね。

グループ学習は大勢の中であっても個人の意見を発言できることが大事で良い学習になると思います。

会長：大変恐縮ですが、会議の時間的制約があり少し心配しております。そこを多少考慮していただければありがたいです。大変申し訳ございません。

教諭1：②「指導と評価の一体化」

この項目のポイントとしては、我々の指導している内容と評価しているものをすり合わせていく、つまり“我々教員が狙っているものと生徒の力を正当に評価してあげる”というところでズレが出ないようにしていく中で、日々変わっていく子供たちに対して柔軟に授業で評価すべきポイントが正答に繋がっていくことが非常に重要なところだと考えています。単刀直入に言うと先生が授業を改善しているかどうか、つまり現状の授業に合わせて工夫したりして何らかの改質をしているかどうかを評価のポイントにしました。

成果目標 生徒アンケートでは学年が上がるにつれて評価は少し下がっていますが肯定的な回答は平均すると80%以上いただけています。評価に大きな差が出た理由として、1年生については入学したばかりで担当教員が生徒の細かな様子を把握することができず、年間を通して様子を把握できたことで担当教員が工夫をし始めているということだと思います。2年3年については継続して担当している教員も多いことからある程度型が決まっているという。型がある程度決まってしまうということは、生徒にとっても学習し易いという良い面もありますが教員としては歩みを止めずしっかりと真摯に受け止め努力していこうと思っています。

教員アンケートによる努力目標による記述が記載されてしまいますが、これに関しては後日あらためてご報告させていただきますのでよろしくお願いいたします。成果目標の評価5と記載されていますが評価4と訂正していただきたいと思います。教員アンケートに関しては、教員ごとにはしっかり工夫し改善努力をしていると聞いていますので、努力目標は少し高めの数字が期待できるかなと思っています。

教諭1：③「問題解決学習や探究学習の充実」

“生徒自身が課題に取り組む際に、様々な方法からより良い方法を選択して課題解決に取り組む判断ができたかどうか”という問いかけをしました。

成果目標 肯定的意見はパーセントとしては悪くないのですが、我々教員としては全員にそういった判断力を付けてほしいと思っているので90%以上に届かなかったことで評価4とし、まさに現状を表していると感じます。教員アンケートはこれからですが、課題解決学習ではいろんな課題解決方法があることを認識させるような課題を用意することは難しい部分もあります。教員の勉強不足もあったり、教員からの意見を聞いたり教員も頑張っているところと取り組んでいるところとです。先ほどの二つの質問は、“授業はそういう内容でしたか”と“先生はその努力をしていますか”について答えていただきましたが、今回の項目では“自分にその力がつきましたか”という内容になっています。少し評価の方向性が違ってきて

いると感じます。自分のことに関する質問であると少し厳しい評価をつけているのかもしれませんが、そこに関してはもっと自信をもって公的な評価をつけられるように努めていきたいと思います。

委員： 2 学年 3 学年になると学力もついて質問自体をよく理解できると思います。1 学年にとってはなかなか難しく、まだよく理解できていないのではないかと。

教諭 1：それに関しては否定できません。この課題そのものは段階を追って提示はしていますが 1 年生の時から「力が付いた」と自信をもって言える生徒は少なくなってしまう、2, 3 年生になるといくらか自信もついてきていると考えています。

副会長：これは子たちが実感しづらいのかもしれませんが、評価している生徒もいるのですから「力が付いた」と感じている子どももいるということですね。

教諭 1：もちろん子供たちが課題解決をした現場で評価した言葉をかけてあげれば実感できるのかもしれませんが人数が多いこともあり現実には難しく、アンケートに現れる評価になってしまい、正確な値をとることは難しいと思っています。ただ、いろんな課題解決の回数をたくさん重ねていく中で、生徒が「力が付いた」と実感しているのではないかと感じていますので、引き続き授業に積極的に取り入れていきたいと思っています。

副校長：順番で行きますと⑤「不登校の削減」になるのですが、教諭 1 の担当説明がまだありますので、申し訳ありませんが、地域連携の「ふるさと探究学習の充実と学校運営協議会との連携」を先に説明させていただきたいと思います。

教諭 1：⑦「ふるさと探究学習の充実と学校運営協議会との連携」

地域連携の「ふるさと探究学習の充実」は西東京市の取り組みで、今年で 3 年となりますが“どのようにふるさとと連携して探究学習とつなげられるか”を試行錯誤しながら取り組んでいます。今年度の取り組みにつきましては、1 年「ふるさと地域学習(職場訪問)」2 年「地域学習(市内施設めぐり)」「平和学習(わたしたちの町の戦争体験)」3 年「地域学習(ふるさと納税と西東京市)」とそれぞれ括弧内のテーマで実施いたしました。それぞれ生徒たちはテーマに沿って調べたり考えたりしながら、それらをまとめて発表までもっていき活動をそれぞれいたしました。

成果目標 生徒アンケート「総合的な学習の時間の探究活動を通し、自ら課題を設定し、学習することによって、西東京市の理解を深めることができたか」で、1 年 96.3%、2 年 92.2%、3 年 95.3%とかなり高い肯定的意見をいただきましたので評価 5 といたしました。

来年度もより良く子どもたちの探究学習が深まるようなプログラムを考えていきたいと尽力しておりますので、どうかご協力をよろしくお願いいたします。

副会長：個人的ではありますが、小学校で“ふるさと学習にどんな活動をしたらよいのか”と困っている様子を耳にしますが、確かにつかみどころがなく漠然としていて何を目指しているのかがよくわからないテーマだと思います。中学校でも教員の方々はとても大変だと察いたします。3 年間を通しての取り組みを組み立てていければ良いと考えています。子どもたちが西東京市に愛着をもって、次の世代になってたくさんのかんことを是正できるようなことになれば良いのではないかと個人的な感想を述べさせていただきました。

会長： 3 年の「ふるさと納税と西東京市」ありますが、もう少し詳細を教えてください。

教諭 1：3 年の取り組みで、ふるさと納税のメリットとデメリットがある中で、西東京市から見てどうなのかという視点で、“ふるさと納税の仕組み”と“西東京市の実情”について学習しました。西東京市役所の秘書広報課の方に講演をお願いいたしました。そのうえで子どもたちは“ふるさと納税を続けていくべきか”“この制度がなくなった方がいいか”“どうしてそう思うのか”“代わりにどうし

たらよいと思うか”などを個人で考え、グループで話し合い、発表するという活動を実施しました。

会長： それに対する評価はどうでしたか。

教諭 1： 秘書広報課の方からは、“子どもたちに考えて取り組んでいただけて良かった”と感想をいただきました。子どもたちからは“西東京市からふるさと納税をなくし、外に流れ出ていく住民税を西東京市のために使う方がよい”など意見も出てデータを交えて説明していました。また、“続けてくならば、西東京市の良い点や魅力を有名人に紹介してもらったらどうか”など具体的な案も出ていました。

副会長： これをきっかけで、子どもたちが自分たちで興味を持ち調べたりして学習していくことはとても良いことだと感じています。

副校長： 時間的なこともあり、授業自体はそれほど深堀ができませんでした。仮に時間をかけることができるのであれば、さらに深堀して具体的に現地調査などを含めて実施できれば、2回目につなげることもできると思います。

会長： 税制のことまで含めてまとめてほしいと思います。

この件に関してご意見はありますか。

副校長： ここで教諭 1 からの説明は終わりとさせていただきます。それでは「不登校の削減」について教諭 2 に説明をお願いいたします。

教諭 2： ⑤「不登校の削減」

教育相談を担当しております。

不登校を生み出さない、また不登校未然防止の充実し、不登校生徒に寄り添った対応に取り組んでいます。

成果目標 不登校出現率をとの平均 6.1%以下を目標としていましたが今年 12 月末時点で 5.03%でした。昨年度が 5.7%でしたので出現率は減少しており、不登校対策の効果があったと考えられますので、成果目標は評価 5 をつけさせていただきました。来年度は不登校加配が終了いたしますので、取り組みの振り返りを行い、より効果的で持続可能な対策を実施、さらに居心地の良い学校づくりを進め、不登校の未然防止の取り組みに重点を置いて取り組んでまいりたいと思います。

会長： 不登校加配が終わってその評価はどのように出されるのですか。

校長： 不登校が減ったということが評価になります。

副校長： 都の施策としてシステムが継続していれば効果があったということで申請すれば継続も可能だったのかもしれませんが。

校長： 加配校については通常 3 年で加配校は終わっていましたが、不登校が減らないことが東京都全体の問題になってきている現状もあり、今までのシステムは取り辞め、施策の変更により本校は 2 年で終了することになりました。新しい施策の一つは、もっと実質的に取り組めるように不登校を専門にアドバイスする教員を配置しています。不登校生徒の面倒をみている教員とともに専門の先生が巡回しています。もう一つは“チャレンジスクール”という不登校生が登校できる学校で今までの時間割と違う授業を少人数でやっていく学校を作りました。都内には現在 8 校ほどありますが、今年度は北多摩地区にはありません。

副校長： 自治体によっては、オンラインでやっているところもあり、図書館や給食センターのようなどころに行けば出席扱いにしている自治体もあるようで、不登校削減をするために様々な手段を検討、実施しているところではあります。

会長： 都に報告した不登校の生徒は何人ですか。

副校長： 約 20 人です。

副会長： 不登校は西東京市の 5 日以上欠席というルールに従って対処していると思いますが、保護者すると不登校と届けているにも関わらず、毎回連絡をしなくてはな

らないとか毎回連絡を受けることが恐怖を感じるとともに負担だという声も聞きます。しかし、それは西東京市のルールなのできちんとご協力いただかなければなりませんね。

教諭 3：⑥いじめの未然防止、虐待の早期発見（指導主任教諭）

成果目標 評価 3 と下がってしまいましたが生徒アンケートで「先生は自分たちの意見や悩みを親身に応じてくれる」という問いに対して 94%以上の肯定的回答を得ることができました。先生たちが親身に相談に乗ってくれて聞いてくれていると感じつつもいじめの発生件数が 3 件であがったことにより、今回の成果目標が評価 3 になっています。昨年度より多めの件数になっているのは、教員たちが“小さいいじめ”も見逃さず“いじめ”と判断し対応してきた取り組みの結果だと思います。今回の件はすべて“SNS 上で嫌なことを言われた”ということで今後“見えないいじめ”も多くなってくると思います。今回の 3 件は、1 年生が 1 件、3 年生が 2 件でしたが全学年においてもちょっとした悪口のようなことはありました。そのあたりを含めて子どもたちのケアを続けていきたいと思えます。いじめの件数が低ければ良いということではなく、起きてしまったいじめをしっかりと対応していくことが大切だと考えていますので、次年度も同じようにしていきたいと思っております。

会長： SNS 上のいじめを子どもたちから実際にみせてもらうことはありますか。

教諭 3： SNS 上でいじめを受けて傷ついたりした子どもたちから相談を受け実際に見せてもらうことはあります。その内容を、いじめを受けた本人が実際に見ることもありますし、友人など周りから教えてもらうケースもあります。

副会長： 今回は、不登校といじめは別の項目になっていますが、因果関係はないということですね。

副校長： いじめを受けた直後は少しショックを受けていますが、問題が解決すると登校しているので不登校には至っていない状況です。

副会長： いじめがきっかけで不登校になることもあると思うので、最初の対応が特に大切だと思います。

教諭 4：⑧学校における働き方改革の実施（経営主任教諭）

経営支援部としては、働き方改革ということで“効率化”を考えています。身近で簡単なところから“机上整理”の声掛けをしてきました。教員の中からも声がかかるようになり継続するべきだと考えています。努力目標でもあるのですが、“業務の効率化に向けたアイデアを共有”ということで“ウェルビーイング・アンケート、より良い職場を目指して”というところで教員アンケートとり、“どうすれば今の状況が改善できるか”ということを集約しております。教員からはどんな状況になれば満足できるか、働きやすい職場にできるか、などの意見を出していただいています。機器の整備やインターネットの環境改善も上がってききましたが、学校だけでは動けないこともあり、それを除いた改革、例えば分掌や行事に関して整備は毎年行っていますが、細かな申し送りや保管や分担など確認して行うなどの意見が出ました。また、毎年の行事やアンケートなどの資料も多く、年度内を目標に各分掌でどのようなアンケートなどを実施しているのかを集約をし、次年度には少し整理した状態で集約ができればと考えています。

校長： 時間外労働は一応 60 時間以内とされていますが、個人によっては時間外勤務で多く超過する教員もいますのでそのような教員には長期休暇中に多く休んでいただくようにしています。また、アンケートに関しても集約できるものは効率よく行うようにできるだけ負担を少なくするようにしています。

副校長： 来年度はできたら 1 人か 2 人の部活指導員が欲しいと思っています。今年度はバスケット部に一人、サッカー部に二人の部活指導員がいます。顧問が不在でも部活動ができるようになったので増やしていきたいと思っていますのですが、市の予

終

算額が決まっているので、通常の顧問としての対応ですと12月末時点で予算が
了します。市から追加配当がいただけたので何とか3月まで対応することができ
ました。予算は学校ごとと配置により時間が決められてしまうので、市と連携し
て指導員を採用していきます。来年度も一人か二人は採用していきたいと思っ
ています。

副会長：先生方のご負担を軽減することができるのであれば、簡単な作業のお手伝いなど
の協力ができればと思っています。西東京のボランティアセンターにも関わって
いるのですが、ボラセンも市民との関わりを広げて知名度を上げていきたいと考
えているのでボラセンのもっている資源を活用してもらいたいと思います。ぜひ
困ったことがあれば、学校だけで留まらず、ボラセンに相談して活用してい
ただければと思います。

副校長：二中は運動会や合唱コンクールなどの行事にPTAの方々の大きなご協力をいた
だいておりますが、今後お願いすることが難しくなった場合、地域の方々に頼
ったりお金を出してお願いするとかしなければならぬと思いますが、その時には選
択肢の一つとしてぜひ紹介していただきたいと思います。

会長：それでは全体の評価をいただきたいと思います。“評価が正しく行われているか
どうか”を表の上から順番に評価を決定していきたいと思います。

校長：評価はABCDでお願いしたいと思います。評価が正しく行われていると思われ
れば

評価A、改善点があれば評価B、まったく評価できないが評価Dとなります。

会長：いじめに関しての6項目目の努力目標が評価3となっていますが発生件数が1件
増え成果目標が評価3でしたが、生徒アンケートで“生徒に寄り添って親身に
応じてくれている”と生徒94.3%が肯定的に感じていることを鑑みると評価Aが
相当すると感じますが、いかがでしょうか。また、4項目目の問題解決学習に関
してですが、問いが実感しづらく、低学年にとってより具体的ではなかったな
どのご意見は出ましたが評価自体は正しく行われているのではないかと思います。
こちらでも評価Aで良いのではないかと感じます。全体を評価Aとし、正しく評価
しているということでもよろしいでしょうか。

全委員：評価Aで良いと思います。

会長：まだご意見もあるかと思いますが、申し訳ございませんが時間の関係もございま
すので全て評価Aといたします。ありがとうございました。

校長：ありがとうございました。

(4) 今後の活動提案について

副校長：それでは大きく分けて3点あります。1点目は評価者のコメントですがそこに直
接ご記入いただき提出していただくか、入力が必要な場合はデータを送って
くだされば、私が入力をいたしますのでよろしくお願いいたします。

2点目はピンク色の紙にご記入いただき、お帰りの際にご提出いただければあり
がたいです。

3点目は「ペンキ塗り」に関してですが、資料がお手元にあるかと思います。今
回は卒業式の翌日に東階段のペンキ塗りを予定しています。現在ボランティア部
を中心に募集をしていますが生徒の応募は今のところ4人という状況です。地域
の方に募集しており、副会長からのアドバイスで保護者の方々にも“すぐる”
で参加を呼び掛けていきたいと思っています。募集に関して“データでほしい”と
いう方がいらっしゃいましたらお知らせいただきたいと思っています。ご協力いた
だけると大変ありがたいです。来年度の学校運営協議会の開催予定をお知らせし
ますので、予定していただければありがたいです。以上です。

校長：来年度も皆さんの委員登録継続で申請を出しておりますのでよろしくお願いいた

します。

(5) 各委員から

委員： 来年度はまた違う方が PTA 会長になると思いますが、一年間ありがとうございました。放課後実習室ですが、各年末試験の前の 3 月 20 日、21 日、25 日の三日間実施いたしました。延べ 39 名の利用がありました。先日、PTA 運営委員会があり来年度の予算確保の都合上、放課後実習室と放課後カフェの決議をとり、出席者の賛成多数で採択されました。それを踏まえて、来年度の PTA 会長に引き継ぎたいと思います。

委員： 同窓会の方からですが、来年度の飲み物代の領収書ですが「田無第二中学校同窓会」宛に出していただければといます。3 月 29 日に同窓会の運営委員会開催予定でしたが、3 月 30 日 10 時からに変更となりました。また、5 月 16 日に同窓会総会が開催されます。

委員： 地域の企業として参加させていただいていますが、今は職場体験の事業くらい力になれていないと思います。できる限りの支援をさせていただきたいと思っています。残念なお知らせですが、ペンキ塗りの当日ですが会社の出社日となっています。ただ出社は社員だけです。家族が二中に通っている社員もおり声掛けをしたいと思います。

副会長： コーディネーターからですが、コーディネーター推進委員会が年 2 回開催されます。田無二中は年間スケジュールを出していただいておりますので、他との情報共有もでき社会教育課から田無二中は良い評価をいただいております。

会長： PTA に質問なのですが、二中では PTA をなくすというような話がありますか。

委員： 田無二中ではそのような話は出ていません。ただ、年々会員は減っています。現在、非会員は 1 学年が 9 人、2 学年が 5 人、3 学年が 0 人で来年度に新一年生が入ってくるとまたどのような状況になるのかを危惧しています。会費の集金は PTA の会計係が行っています。

副会長： 教員は前年度まで PTA 会費を支払っていましたが、今年度から支払いはなくなりました。

会長： 時間が大変に押してしまいましたが、本日はこの後に放課後カフェの予定があります。申し訳ございませんでした。第 5 回学校運営委員会を終わります。本日はお忙しい中、ありがとうございました。